

委員会町内視察レポート

産建厚生常任委員会

◎11月7日(月)、工事現場やオートキャンプ場、みやまフォレストフィールド等を視察。

〔社会福祉協議会〕

社会福祉協議会の運営状況及び福祉サービス等の概要や今後の事業計画について、職員より説明を受けた。

現在、正規職員7名、臨時職員2名の体制で運営しているが、コロナ禍において、感染対策の実施や多様化する

ニーズの中、現在の職員数でどこまで支援が可能なのか心配される。

ボランティアスタッフも登録されているが、スタッフの高齢化も心配され、担い手の確保も含めた組織の充実も必要とされる。

また、コロナ禍により、感染対策が講じら

ない集いやサロン等が休止となり、憩いの場が失われた利用者のひきこもり状況が続く事も懸念される。

今後の事業計画で、買い物を目的とした外出を支援する「買い物支援サービス」については、地域限定でモデル的に実施されるとの事だが、独り暮らしの高齢者の孤独、不便解消のためには必要なサービスである。

高齢化が進む町において、社会福祉協議会の事業やサービスは欠かすことはできないもので、感染対策を講じながら通常通り実施する事は苦労が多いと思うが、今後も継続してもらいたい。

〔土生川砂防事業〕

早期整備が要望されている土生川整備工事の進捗状況と今後の計画について、県担当職

員より説明を受けた。

日高川の支流である土生川は、総延長5.3kmの二級河川で上流部の整備が完了しているが、下流部で一部未整備となっている。

現在施工中の箇所は延長30mで、残り延長410mの内、橋梁2カ所の架け替え、物件補償の課題もあり、あと4〜5年で完了の見込みとの事である。

本改修による生態系への影響が心配されるが、管理道の整備や通水断面の拡大により安

全な河川確保と汚染改善に期待し、早期完成を望むところである。

〔オートキャンプ場〕

高津尾地内の鳴滝オートキャンプ場の概要及びPRの計画等について、担当職員より説明を受けた。

この度工事が完了し、広さ140〜150㎡の8区画が整備された場所や周辺の環境は適しており、自然そのものを楽しめる上、キャンプINGカーの乗り入れや整備された芝生の



社会福祉協議会からの説明



土生川砂防事業



鳴滝オートキャンプ場

上でキャンプ用品を使用でき、静かに夜景を楽しめるなど魅力に満ちた場所である。
近年のキャンプブームにより、観光の起爆剤として県内外から多くの利用者が見込め、利用状況を見た上で、上流側の隣接地に区画の増設を検討しても良いと考える。

「みやまフォレストフィールド」
みやまの里森林公園内にオープンした、サバイバルゲームのフィールドとその内容について、担当職員より説明を受けた。
フィールドは、森林公園内のアスレチック施設が整備された約2000㎡の区域を利用。既存の設備を活用し、コンパネの弾除け、エリア全体を囲んだネットや食事・休憩用の木製ベンチなど費用は低額で済んでいる。

専門家と連携し、安全面に関しては十分に配慮されているが、競争をイメージする人がいるので、理解が得られるような取り組みを期待するところである。
ゲームを楽しむ場を提供することで、利用客の宿泊、食事等の収益が見込まれ、相乗効果による地域活性化に



サバイバルゲームのフィールド

運営は、和歌山市のミリタリーシヨップが行い、利用料金・ルールと使用するBB弾やエアガン等の仕様が決められている。

繋がり、また、森林公園内の利活用として、通路の藤棚を利用した花・フルーツ等の植栽により、ゲーム以外の新たな客層の発掘にも繋がると思われる。

他府県では、鳥獣害対策も兼ねている事例もあり、何らかの方法で繋げる事ができないものか、検討したい。

「樺山ダム減勢池側壁倒壊復旧工事」
令和3年12月17日に発生した樺山ダム減勢池側壁倒壊の経緯及び

復旧工事の進捗状況について、ダム管理事務所職員より説明を受けた。
倒壊の原因は、国の専門家に依頼しており、継続的に被災原因や対策等について、意見を伺っているとの事である。

実施している。計画では、令和5年6月中旬からの洪水期までに完了するとの事である。
これまでダム放流が実施される度に、繰り返し工費用仮設道路を復旧しながらの施工であり、今後の倒壊した側壁と土砂の撤去作業でも、放流により中断を余儀なくされる可能性がある。

倒壊直後の同月20日から仮復旧工事、令和4年3月下旬から側壁復旧工事に着手、同年10月中旬に側壁部が完成。現在は土砂と倒壊した側壁の撤去作業を

安全第一で実施し、早期完了が望まれる。



樺山ダム側壁倒壊復旧工事